

活動終了報告書（要約）

採択年度	令和 3(2021)年度
コード番号	21-A-203

団 体 名	久保珠美	申請額
		650,000 円
事 業 名	定住 10 年を迎えたミャンマー難民の現状と課題	助成額(受領額)
		650,000 円
		事業地(国名)
		日本

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内

申請者は 2007 年から 2010 年にかけて大学院での研究を行いつつ、在外公館にて難民問題に取り組み、国境の難民キャンプを訪問など直接的な経験を積んだ。2010 年に日本へ帰国後、難民支援団体で受け入れ事業を担当し、政府の有識者会議にも出席した。現地での経験を活かし、大学で難民受け入れについての講義やシンポジウムに登壇するなど研究を深める一方、難民からの要請に応じて日常生活の支援に携わってきた。関わる立場を調査者から支援者、理解者へと進化させ、難民家族との長期的な関わりを通じて社会的統合を促進する活動に取り組んでおり、現在は社会福祉士及び精神保健福祉士の資格を取得し、地域における難民家族の社会的統合の促進に力を注いでいる。

■ 今回実施した活動の概要 * 400 字以内

本活動は、定住から約 10 年を経過した難民家族の社会経済状況の調査を通じた理解の深化である。具体的には言語能力、生活習慣、就学・就労状況、健康状態といった多岐にわたる項目を含む調査を実施した。彼らが直面する日常生活の課題をより詳細に理解し、置かれている社会環境への理解を深めることができた。また、地域住民と難民家族との間の関係強化のために地域住民グループと連携し、難民家族と地域社会とのつながりを強める方策を模索した。このプロセスでは、申請者の役割は調査を行うだけでなく、難民家族が地域社会へとより良く統合できるよう支援を提供することにも及び、これには信仰に基づく支援の形を取ることも含まれた。一連の活動を通じて、難民家族と地域社会との間のつながりを強化し、理解を深め、そして全体的な統合を促進することを目指した。これらの取り組みは、難民家族が抱える困難や課題を理解し、対応するための具体的な手段を提供する重要な機会となった。

■ 成果 * 400 字以内

活動を通じて、難民家族の複雑な日常生活の課題と親子間の役割、地域住民との交流、そして職場や学校、自治体からの支援について理解することができた。特に、親は言語の障壁を克服するために子どもに依存し、自分自身で生計を立てるという自立の定義に苦しんでいた。子どもは教育を受ける一方、ヤングケアラーとして親の支援役を果たしていた。地域住民は援助を提供したが、地域支援者の高齢化や中心的な人物の欠如により困難を伴った。また、自治体は難民だから特別扱いという立場は取らず、教育や経済力に格差がある留学生や技能実習生などの外国籍住民と同じように扱っていた。これらの状況を把握することで彼らが直面する課題への理解を深め、より適切な支援策を模索するための知見を得た。本活動は難民家族が自己決定を行う力を向上させる一助となり地域社会への参加を促進した一方、難民家族が抱える困難や課題は依然として存在し、さらなる支援と理解が必要であることが明らかになった。

* 記載者へのお願い: 本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい(全体で 1100 字以内程)。